発行所 東京都新宿区新宿7-17-18
戸山マンション241号 〒160
社団法人 大学婦人協会
電話 03－3202－0572
FAX 03－3202－0830
振替 東京 5-173434
編集兼発行人 牛頭栄子
発行日 平成3年2月1日

JAUW

おもな記事

1面　会長あいさつ，第34回通常総会日程，宿泊，観光案内，国内奨学生選考経過報告並びに社会福祉奨学生選考経過報告
2面～5面　奨学生提出論文および国外奨学生紹介
6面　記念講演，新春の集い，新入会員

一九九一年を迎えて

会長　中村ミチコ

謹んで新春のおよろこびを申しあげます。

「異常気象」が度々使われましたが、大変暖かい冬でございます。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

会員一人ひとりの絶大なご支援とご協力のもとで開催いたしました昨年のセミナー「開発教育」とフォーラム「女性と開発教育」は、非常に有意義な、また、大変考えさせられることの多い会でございました。あらためて感謝いたしております。今後の事業において、一層協力して、その成果を更に、一九九一年のテーマ「環境問題」に向けて発展させていきたいものでございます。

さて、タスマニアで開かれる第二十八回オーストラリア大学婦人連盟の総会の開会式（一月十三日）に日本から八名の会員がご出席下さいます。この程、ご報告がございましたのでここにお名前をおしらせいたします。

（神戸支部）
福田静子・上川保子・森脇洋子・立花節子・甘楽幽香子
（東京支部）
芥川妙・長野栄子
（大阪支部）
角田くに子

タスマニアの総会が盛会でありますように、そして、また日本からお出かけ下さいます八名の会員の方々もお元気で楽しいご旅行ができますようお祈り申しあげております。

IFUW第七十五回評議員会が本年夏（八月三十日（金）―九月三日（火））ジュネーブで開催される予定でございます。今回の評議員会のプログラムは、ビズネス・ミーティングの他に、セミナー、ワークショップ、パネル・ディスカッション等が計画されております。評議員は勿論のこと、オブザーバーとして大勢の方々のご参加を本部は期待しています。

一九九〇年度も終わりに近づいて参りました。各支部におきましても、本年度の支部事業、セミナー等の年度の締めくくりで本部同様お忙しいことと存じます。広島で開かれます第三十四回総会で、皆様にお目にかかり、一年の成果についてのご報告を伺うことを楽しみにいたしております。河石禮子広島支部長はじめ、広島支部の会員の方には、皆様をお迎えする準備をしていらっしゃいますので、一人でも多くの方々がご出席下さいますようお待ち申しあげます。

責任多い中にも希望をもって、九十年代の大学婦人協会と会員一同の発展と活躍をお祈りして新年のご挨拶とさせていたぎます。

第34回総会，宿泊，観光のご案内

新春の候，会員の皆々様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて，第34回を迎える大学婦人協会総会が広島で開催されることとなりました。つきましては下記のとおり日程を組みましたので，何卒お誘い合わせの上，多数ご出席を賜りますようご案内申し上げます。

また大会終了後，この地ならではの観光も企画いたしました。春うららかな瀬戸広島で皆々様との親睦を深めることができれば幸いと存じます。

広島支部長　河石禮子

1. 日程・会議・会費

月日	会議	時間	会場	会費
4月1日(月)	支部長懇談会	10：30～12：00	全日空ホテル 4F 飛鳥の間	－
	評議員会	13：00～16：00	全日空ホテル 4F 飛鳥の間	－
	懇親会	18：00～21：00	全日空ホテル 3F 万葉の間	11,000
4月2日(火)	総会	9：00～16：00	全日空ホテル 3F 葵の間	3,000

2. 宿泊

広島全日空ホテル
- 住所　〒730　広島市中区中町7－20
- TEL　082－241－1111（代）
- 宿泊料金（おひとり）
  ツイン10,300円　　シングル11,800円（朝食，税，サービス料込）

3. 観光

観光	内容	会費
①4月3日（水）	春の瀬戸内海クルージングと江田島・宮島観光（旧海軍兵学校，クルージングレストランのフランス料理，宮島）	18,000
②4月3,4日（水,木）	瀬戸内海とぽっちゃん湯の町「道後温泉」1泊2日	33,100

4. 申し込み方法

申込書にご記入の上，支部単位でまとめて個人用，支部用ともに2月20日までに下記へお送り下さい。
※参加費は銀行振込でお願いします。

申込書送り先　〒730　広島市中区舟入本町18の2
TEL　082－232－5672
大学婦人協会広島支部　全国総会準備委員会　青山君子

参加費振込先　広島銀行八丁堀支店
普通預金　0476086
口座名　大学婦人協会広島支部　全国総会準備委員会

〒730　広島市中区八丁堀4の18
TEL　082－221－9515　河石禮子

5. その他

宿泊，観光についてのお問い合わせは下記にお願いいたします。
旅行主催　広島県知事登録176号（旅行取扱主任者岡本道宏）
〒730　広島市中区紙屋町1－6－9星ビル3F
瀬戸内海汽船トラベルサービス　担当　岡本，平川
TEL　082－249－3031
その他のお問い合わせ
〒730　広島市中区舟入本町18の2
TEL　082－232－5672　青山君子

※　キャンセルの受付は10日前までに。10日以降の返金はいたしかねます。
ただし，総会費3,000円は10日以前でも返却できませんので，ご了承下さい。

1990年度　第43回 国内奨学生の選考経過と結果

国内奨学委員長　鍛島康子

今年度の国内奨学生の募集は、さきの総会において改正された規程によって行いましたので昨年度とは少し異っています。まず、規程に、奨学金が設定された新たに設定することになりましたので、選考委員会のメンバーや募集要項を送る大学の見直しなどを行いました。書類は昨年度と同様に六月はじめに送付し、十月八日の締切りとしました。

この結果、学部二十通、大学院二十三通、安井医学奨学生への応募二通、計三十四大学から四十五通という多くの応募書類が集まりました。十月三十日選考委員会を開き、理事会をへて、学部学生七名（五万円）、大学院生八名（十万円）、安井医学奨学生一名（三十万円）を決定しました。規程のとおり地域別ブロックを考慮に入れましたが、第三ブロックの学部学生の中に主旨にそう学生はいませんでした。応募者の研究分野や学科は、学部では社会学系が多く、自然科学系が少ないのに対して、大学院ではこれまでより自然科学系での研究者が多いのが今年の特徴でした。

では、委員の間で評価の高かった学生を紹介してみましょう。「情報を自分の目で見、そしてそのポイントをみきわめて、一方的な情報の受け手でなく、優秀な送り手になりたい」と今日的問題を説得力あふれる論文にまとめ、将来の抱負をのべた学生に委員一同が最も高い評価をしました。これは英語学科の学生です。史学や法律、教育や家政経済学科などの社会科学系学生も、現実の日本の社会状況に着目した論文を書いていました。

大学院の応募者はすべてが優秀で優劣をつけにくいものでした。この中でも、研究方法が明確で、将来研究が継続的に行われる見通しのあるもの、そして、社会的貢献度が高い研究をしている学生が選ばれたと思います。研究分野は自然科学や医学などに生命体についてのものがいくつかありました。例えば、人間の脳の情報処理能力を問題にした基礎研究や、同じ脳でも発育と神経細胞の働きの研究などです。また、人間が快適にすごす環境空間の研究では、これまでの視覚情報に聴覚情報を統合するという最新の研究にとりくみ建設省で働く予定だということです。また、生活の安全をテーマに、ハード面とソフト面の両面から、つまり、工学と社会科学の両面のバランスをとろうとする生活環境の研究もありました。八名の方々の研究はどれもすばらしく、この方々の研究を奨励したいと思います。

安井医学奨学生の募集は今年が初めてで様々な問い合わせがありましたが、結局二名の応募者でした。選ばれた五藤さんの研究は薬学の分野のトップレベルの研究であり、また研究成果を着実にあげているということで評価されました。

ホームズ奨学生は人文科学研究科の日本文学専攻の学生をお茶の水女子大学から推せんしていただきました。奨学金は今年から十万円に増額されました。推せんされた柴佳世乃さんは和泉式部について多面的な考察をしていられます。その広い視野、鋭い問題意識、高度な学力と意欲など学科内でも傑出した存在であると推せん者は述べていられます。

以上、本年も非常に優秀な学生に奨学金を与えることが出来ました。応募に協力いただいた大学関係者、支部の方々に感謝申し上げます。

当初の主旨、つまり、優秀な学生に教育、研究資金を与え、その奨励をするもので、経済的理由のために交付されるものではないということが再確認されました。次に安井医学奨学金をの二名の学生に決定した。

この優秀な二人の方々のその目標にむかってゆくひたむきな思いは、丁度高く澄みきった冬の空を真白な飛行機雲の長い尾を引き時々キラリキラリと光りながら飛んで行くジェット機のさまを思わせるものがあり、すがすがしくそして何か大きなものと一体になっているように見える。

長沢修子さんは普通高校へ進学する過程で一年浪人しながらも見事にその目的を達成し、又鍛治倉陽子さんは国立大学で数学を学んでおられるが、国民の納めた税金が一人の学生のためにどれくらい費されているかを思い、社会に対して責任を感じ、勉学にはげむことによって恩返しをしたいと述べている。

二人の方の小論文に共通していえることは概念への逃避はなく、きわめて具体的であり日々生を営んでいる者としての瞬間々々を鋭く、暖かく述べていることである。

人間としてどう生きて行くかということに幼い時より常に正面からしっかりと取り組んでこられた二人の方々の姿勢は、私共の心を強くゆさぶり、選考しながらかえって多くのものを学ばせていただいた思いであった。

長沢修子
道都大学社会福祉学部
社会福祉学科　三年二三歳
二級　角膜白斑眼球振盪による手動弁左〇・〇三。
右股関節機能の著しい障害。
視覚障害者にとって図書館の存在は知識を高め有効に情報を収集する上で非常に大切な場所であるとの観点から、研究テーマに「視覚障害者に対する図書館の実態調査」を選んでいる。

障害の重度からして一般学生の四倍の努力を学習面にかけながら優秀な成績をあげ「身体的障害は必ずしも心の障害にならない」をモットーにやわらかな心の持主であり、さりげなく且やさしく「悩みながら成長する」ことを教えられると在学校の高い評価がそえてあった。昨年父上を亡くされた後は看護婦長をしておられる母上や姉上と強い心のきづなのもとに明るく生活をしておられる。

鍛治倉陽子
筑波大学自然学類数学主専攻　三年　二二歳
三級　聴覚障害百dB（両耳）
先天性聾
聴覚障害というハンディキャップを克服して高校時代から興味をもっていた数学を専攻し、高校時代の正解のある問題を解いてゆくということとは違う正解の用意されていない問題を、自分なりの取り組み方で自分の数学を作ってゆく面白さを楽しんでいると述べている。

明朗、誠実な性格故多くの人達に囲まれ、手話サークルでは健聴者に教え積極的に学生々活にはげんでいる。

将来は数学の専門を生かし同じ障害を持つ後輩の指導を教育・福祉・研究等の分野で行いたい希望を持っている。

第20回　社会福祉奨学生の選考結果

社会福祉委員長　野崎方子

本年度は岩城典子会員のご母堂のご遺志により、社会福祉奨学金にとご寄付をいただいたことで、例年より一名多い六名の学生の募集を行ったが結果として次

会費納入についてお願い

一九九〇年度会費未納の方は至急お納め下さい。

支部長の皆様には、支部会員の会費をおまとめの上、本部まで、ご送金下さるようお願い申し上げます。

会計
会員委員長

1990年度　国内奨学金受賞者

Ⅰ. 国内奨学生

1. 大学院学生　8名

氏名	大学院	研究科	課程・学年	専攻	支部	出身高校所在地
今井ひろみ	東京大学	人文科学研究科	修士 2 年	心理学専攻	東京	北海道
伊村則子	日本女子大学	家政学研究科	修士 2 年	住居学専攻	東京	兵庫
待鳥敏子	国際基督教大学	教育学研究科	博士前 2 年	教育方法学専攻	東京	福岡
山下さゆり	東京工業大学	理工学研究科	修士 2 年	土木工学専攻	東京	静岡
板倉美奈	名古屋大学	理学研究科	博士前 1 年	物理学専攻	愛知	愛知
加藤早苗	北海道大学	水産学研究科	修士 2 年	水産食品学専攻	札幌	北海道
井上真理	奈良女子大学	人間文化研究科	博士 3 年	生活環境学	奈良	愛媛
吉村由美子	大阪大学	医学研究科	修士 2 年	医科学専攻	大阪	大阪

2. 学部学生　7名

氏名	大学	学部	学科	支部	出身高校所在地
大野祥子	東京女子大学	文理学部	心理学科	東京	東京
河上弥生	上智大学	国語学部	英語学科	東京	北海道
柴田育江	日本女子大学	外国語学部	英語学科	東京	神奈川
所真理子	日立教大学	家政学部	家政経済学科	東京	千葉
西美保子	東京農工大学	文学部	史学科	東京	千葉
横山織江	慶応義塾大学	工学部	電子工学科	東京	東京
石塚一美	新潟大学	法学部	法律学科	東京	新潟
		教育学部	中学教員養成課程	新潟	新潟

Ⅱ. ホームズ奨学生　1名

氏名	大学院	研究科	課程・学年	専攻	支部	出身高校所在地
柴佳代乃	お茶の水女子大学	人文科学研究科	修士 2 年	日本文学	東京	静岡

Ⅲ. 安井医学奨学生　1名

氏名	大学院	研究科	課程・学年	専攻	支部	出身高校所在地
五藤由起子	名古屋市立大学	薬学研究科	博士後 2 年		愛知	愛知

Ⅳ. 社会福祉奨学生　2名

氏名	所属大学	学年	専攻	支部
長沢修子	道都大学	3 年	社会福祉学部社会福祉学科	札幌
鍛治倉陽子	筑波大学	3 年	自然学類数学主専攻	茨城

一九九〇年度国内奨学金受賞者
研究計画と将来の希望
(提出論文)

〈大学院学生〉
今井ひろみ

修士論文のテーマは「視覚的注意の空間特性」である。人間を情報処理系と見た時、人間が処理できる情報は、質、量ともに、常にその時の状況により限られている。人間のその限られた処理能力を有効に振り分けているのが、注意機構である。人間の脳が複雑で高度な情報処理を行うために、注意機構は欠かすことのできないものである。したがって、この情報の選択機構の研究は、人間の情報処理過程を明らかにすると

いう、心理学の根本的課題に対して、大きな意味を持つと考えられる。

人間の情報処理過程は大きく分けると、主に情報の入力を行う知覚過程と、その入力情報の統合を行う認知過程とに分かれるが、まずは、初期の情報処理過程である知覚過程における注意機構の研究を行い、徐々に高次の情報処理過程へと進めていきたいと考えている。そこで修士論文では、知覚系の中で現在最も体系だてた研究がなされている視覚系に関して、注意機能の空間特性を実験的に測定しようと考えた。

平成二年九月十日現在の研究状況は、コンピュータを用いた精神物理学的な実験により、一定の条件下での意識的、そして無意識的な注意機能の空間特性が得られたところである。今後はこれらの空間特性の時間変化を測定し、そのダイナミックな空間特性を得る実験を計画している。これらの結果を、現在までに得られている心理学の知見とともに、工学部で学んだ統計力学の並列的な考え方や、ダイナミックな系の扱い方などもとにして解析し、修士論文としたいと考えている。

人間の情報選択のしくみを明らかにすることは、将来、人工知脳の発展にも大いに役立つと考えられる。将来の計画は、修士過程修了後、博士過程に進学し、現在の研究を続けて、視知覚系における注意機構についてまとめ、その知見をもとに、認知過程における注意機構に研究を進めたいと考えている。博士号取得の後は、心理学の研究職(できれば大学関係)に進みたいと考えている。

中村ミチコ会長

伊村則子

「人間の幸福な生活」を念頭に卒業論文より一貫したテーマとして「安全」を追究してきた。住居はその使い手である人間抜きには存在しない。そこで生活者に対し、安全研究の基礎資料ともなる住知識を問う調査を卒業論文で行い、卒業後も「安全を脅かす災害」に対する人々の反応を新聞記事などを媒体として調査するなど、人間視点から安全をとらえるべく努力してきた。

住居は「安全、かつ快適な生活を保障する」シェルターである。その「場」の提供を可能にせしめる「構造安全」は、建築全体が取り組まねばならない命題であり、建築安全における位置づけはきわめて高い。そこで、修士論文のテーマとして「構造安全」を取り上げることにした。

初年度では、総合的判断の第一歩として、住居と同じように人間が内に入って使用する他の構造物－船舶・航空機・鉄道車両・自動車－の構造安全確保の方法を考察した。各方面の方々に対するインタビューや文献から、法規制における安全確保や構造安全に対する考え方は「構造物が可動か否か」によって異なり、特に安全確保の一手段である維持管理に大きな違いがあることを知った。さらに、可動か否かを分ける荷重外力に対する概念は分野ごとに異なり、設計方法や安全思想の違いを浮き彫りにした。以上、初年度に建物の器(ハード)としての安全概念を追究した。この成果は、幸いにも安全をテーマとした学生懸賞論文で一席になり、その後の展開に大きな励みとさせて戴いた。

本年度は、構造安全のソフト的解明を目指して文献と闘っている。構造安全のソフト的解明は社会背景を明らかにするところから始まる。そもそも建築構造では、経済性や人間性を取り巻く「社会科学的背景」の存在を知りながらも、それに対する認識が低い。住居は人間が住まうことによって、初めて有機的な存在になる。現社会に直接かかわる学問が工学であり、さらに安全確保の一手段である限り、社会科学とのつながりなくしては、住居は語れない。

例えば、地球環境は住居に大きく影響し、また現代の社会経済体制とこれほど密接につながっている存在もない。住居が有機的な器であるためには、社会科学的要因をふまえた上で、技術的展開を行う必要がある。

本研究は、安全設定における自然科学と社会科学の関係(バランス)を解明するところに意義がある。最終的には住居・建築を包含する安全マクロに対して住居構造に位置づけを与え、「幸福な生活」の実現を提供したい。

よりよい生活を確立するには従来の学問領域にとらわれる必要はない。総合的・学際的研究が求められる。今後は人と住居とを結ぶパイプ役として、少しでも世の中に還元できる人間になれるように精進するつもりである。

写真は前列左より金子東京支部長，野崎社会福祉委員長，新潟支部長豊島千代氏，野本照子氏，中村会長，愛知支部長三輪ふさ子氏、鍛島国内奨学委員長，後列右から丸山・山崎両副会長と奨学生の皆さん

待鳥敏子

一、研究課題の目的と方法

現在、「日本語教育の読解教育におけるメタ認知的技法の効果に関する実証的研究」という題目で修士論文を準備している。

研究の目的は、外国人に対する日本語教育の中の読解学習における効果的な教授方法を明らかにすることである。この研究では、特に文章読解促進に関わるメタ認知を働かせるといわれる活動として文章の要点にアンダーラインを引く場合と、あらかじめ教師がアンダーラインを引いておく場合との効果の違いを実験で比較検討する。

実験は、大学で学ぶ留学生を対象に、上の二実験群及び何もさせない統制群に分け学習を行ない、直後に試験を実施し、条件間の差について結果を分析する。また、課題に対して、どのような学習者に、どのような処遇が適切かを知るため、学習者を読解力の上位者と下位者に分け、各々の処遇の効果について詳しく分析する。

現在、一九九一年一月十日の論文締切に向けて、予備実験を終え、十月の初めに最終実験を行なうための準備をしているところである。

二、研究の背景

最近、日本語学習者は急増していると言われている。これに伴い、学習者層や学習の動機・目的が多様化している。これらの多様化に対応するために求められるのは、誰(どんな学習者)のために、何(どんな目標)のために、どのような教授方法がより適切であるかというシステマティックな教育工学的視点であると考える。

そこで、読解学習をとりあげ、教育工学的視点から検討することにした。読解を選択したのは以下の理由による。留学生にとって専門書が読めるようになる必要性が高いこと。心理学や情報処理研究の分野で読みの過程といった文章理解に関する新しい知見が多く得られたこと。読解の授業を担当した際に強い問題意識を持ったこと。

読解とは、文章を読んで理解することであり、そのためには、言語的、内容的知識及びそれを適切に活用する技能が必要である。読解の過程は、①符合読解②逐語理解③推論的理解④理解のモニタリングに分かれるといわれる。④の段階はメタ認知、すなわち、認知に対する自覚の働きとして説明されている。最近の研究から、読解を促進するには④の段階を促すことが効果があるといわれている。そこで、この研究では、この活動の一つをとりあげ検討することにした。

三、将来の希望

教育工学的立場から、外国語教育について実践・研究を行なっていきたい。当面は、留学生の日本語教育に従事し、将来的には外国語教師の育成に携わりたいと希望している。

山下さゆり

私は現在、東京工業大学大学院土木工学専攻において、灘岡和夫助教授の指導の下に海岸工学の研究に携わっています。近年のウォーターフロント開発ブームにみられるように、人間の生活の舞台として、海域と陸域の接点である海岸地域に特に注目が集まっていますが、それと同時に、そこにより快適な環境空間を創造していこうという機運も高まりつつあります。私は、その際の空間・施設設計を手助けするツールの必要性が広く認識されていることに着目し、修士論文の題材として、「聴覚情報を統合した動的景観シミュレータの開発」を選び、現在研究を進行させつつあります。

最近の景観工学の分野におけるシミュレータとしては、コンピューターグラフィックや写真合成ハメコミなどの視覚情報を用いたものが多く使われていますが、我々が周辺環境を受け入れる場合、聴覚や嗅覚などの五感を複合した認識行為を行っていることを考えると、視覚だけのシミュレータでは不十分であると言えるでしょう。このような従来の限界を脱却するため、視覚情報に聴覚情報も統合した形の、より一般性のある景観評価ソフトを開発することが、私の修士論文の課題であります。近年「サウンドスケープ」という概念が一般的になりつつありますが、本シミュレータを開発することによって、「音」が環境空間においてもつ意味・役割を明らかにし、それによって、よりトータルな観点からの環境空間設計手法を確立していくことを目指しています。

具体的には、画像処理部として、視点の任意の動きに対応した三次元コンピューターグラフィックと、音響処理部として、音量及び音質の変化を再現し得るデジタルサウンドプロセッシングをあわせたものを、画像・音響複合シミュレータとして開発します。また次の段階として、様々なウォーターフロント計画をケーススタディとして適用させ、本システムの有効性を確認する予定です。

さて、私は今年度で修士過程を修了する見込ですが、将来の道として公務員

(次頁へつづく)

（前頁よりつづく）

を選び、来年度より建設省に土木行政職として入省する予定です。公務員になることはかねてからの希望であり、建設省に勤務することで、国の公共・民間事業を統合的に誘導してゆく業務にたずさわることができると、夢をふくらませています。もともと私がこの土木工学の道に進んだのは、将来、人間がよりよく生活していく場を提供できるような職業に就きたいという希望があったからで、建設省において街づくりや道路・河川行政にかかわることで、これらの夢を果たしてゆこうと思っています。

板倉美奈

私が生命現象に興味を持ち始めたのはいつ頃であったのか、今ではもうはっきりと覚えていない。生物を動かすすべてのものに対して「何故?-どのようにして?」ということを感じ、それらの研究に自分も触れてみたいという気持ちから生物物理という分野を選んだ。さて、生物物理と一言で言ってもその範囲の何と広いことか。私は特に生理学的なことに興味を持っていたので、先生にカルモデュリン（以下CaMと略）の話を聞いた時、是非この蛋白質について研究してみようと思った。

CaMはすべての真核生物に普遍的に存在する分子量約一万七千の小さな蛋白質である。一分子中に四個のCa^{2+}を結合する部位をもち、細胞内でのCa^{2+}濃度の変動をシグナルとして受けとり、みずからの構造を変えて多種多用の酵素群を活性化させることでそのシグナルを伝えるという。細胞機能にとって基本的な役割を果たしている。又、高等動物では特に、精巣と脳に多く見い出されることから、減数分裂諸過程や神経伝達におけるその役割の重要性が考えられている。一九七〇年のCaM発見以来、現在までに、その構造、機能発現のメカニズム、生理的役割など様々な角度からの研究が行われてきた。

私が修士過程の研究で目的とすることは、CaMへのCa^{2+}の結合、それによって引きおこされる構造変化、標的蛋白質との結合反応を時間軸に沿った一連の出来事としてとらえ観測し解析することである。実験としては、まずスタティクスの測定として①CaMのチロシン蛍光強度とCa^{2+}濃度の関係を調べる②CaMはCa^{2+}結合による構造変化で疎水性領域を形成し、この疎水性領域が標的蛋白質との結合部分であると言われていることから、疎水性蛍光色素を標的蛋白質のアナログとして用い、CaM蛍光色素複合体の蛍光強度とCa^{2+}濃度の関係を調べる、次にストップドフロー法によるキネティクスの測定として③CaMからのCa^{2+}解離反応の測定④CaM蛍光色素複合体からのCa^{2+}解離に伴う蛍光色素の解離反応の観測⑤CaM蛍光色素複合体からのCa^{2+}解離反応を直接観測できるようなシステムを確立し解析する、等である。これらの結果を総合的に解析し最終的に、CaMの機能発現の反応スキームを決定して修士論文としてまとめたいと思っている。

CaMについてもっと興味深いことは、その機能の多様性である。比較的低分子量の蛋白質であり、しかもその一次構造はきわめて対称的で比較的単純なものであるにもかかわらず、十種類以上の酵素と相互作用をし、それらを活性化させることができる。そこで修士課程の研究の後は、CaM研究をさらに進めて、CaM標的酵素活性化のメカニズムは、それぞれの酵素によって異なっているのか、異なっているとしたら何が異なっているのかということについて調べてみたいと思っている。蛋白質の機能発現のメカニズムの解明を目標とする自立した研究者として、研究の継続発展が可能となる進路を将来もとっていきたい。

加藤早苗

私は、"コイミオシン尾部の構造に関する研究"というテーマで日夜実験に励んでいる。

筋収縮は、筋原線維中に配列している太いフィラメントと、細いフィラメントの間に、ATPを介して起こる反応であり、太いフィラメントを構成する主なタンパク質がミオシンである。ミオシンは、分子量四十八万の巨大タンパク質で、球状の頭部と棒状の尾部から成っている。うち頭部は、ATP分解能、アクチン結合能、尾部は生理的イオン強度下でのフィラメント形成能という生理機能を有している。

特に魚類ミオシン頭部については、我教室でかなり研究がなされており、頭部の有するCa－ATPaseの失活速度を指標とすると、魚類ミオシンはウサギミオシンに比べ変性速度が速く、さらに魚種間で比べると生息水温の低い魚のミオシンほど変性速度は速い。

しかし、以上のことには、ミオシン尾部の質は反映されていない。また、魚類ミオシンは、ウサギのものとは異なったフィラメントを形成するとの報告があることから、魚類ミオシン尾部の性質について理解することは、意義あることといえる。

そこで私は、魚として入手しやすいコイを用い、コイミオシン尾部の性質を明らかにしようとしている。修士二年迄の研究では、まず、コイミオシンのプロテアーゼ消化性を検討した。それに基づいて、コイミオシン分子を酵素限定分解し、うち尾部のみをとりだし、精製する方法を確立した。修士二年現在は、そうして精製したコイミオシン尾部の諸性質を調べているが、特に尾部のプロテアーゼ感受性がウサギのものと大きく異なることを見いだした。この結果をもとに、コイミオシン尾部のうち、どの部分の構造が異なっているのか、そしてその局所的な構造の違いが、フィラメント形成の際どう関わってくるのかについて更に検討を重ね、修士論文でまとめようと考えている。

修士卒業後は、博士課程進学予定である。博士論文においては、他の魚種のミオシン尾部を調製し、諸性質を調べて、比較生化学的見地を深めるつもりである。更に、ミオシンの各部分（頭部と尾部、尾部内部）の安定性を比較検討し、その情報を総合してミオシン分子全体の安定性について議論していこうと計画している。このことは、魚肉の貯蔵加工中のタンパク質変化を知る基礎条件となり得るため、食品学的にも意義あることとなろう。

学位取得後は、不安定なタンパク質を扱ってきた経験、知識を生かせれば幸いと考えている。食品、化学関係の民間研究所、または公務員として水産庁水産研究所、両方共チャレンジするつもりである。

中村会長より賞状と奨学金を受ける奨学生

井上真理

研究課題：繊維および繊維集合体の性能と力学的異方性に関する研究

私は、上記題目で博士論文の研究を進めている。生活環境材料としての繊維塊や布などの繊維集合体の性能は、繊維自身のもつ固有な力学的性質ならびに繊維の集合構造や糸の集合構造に依存している。繊維集合体の構成単位である単繊維は繊維軸方向に高分子鎖が高度に配向しているため、力学的に強い異方性を有する。さらに、繊維集合体も集合構造によって顕著な異方性を示す。これらの力学的性質は、最も基本的な性質であるにもかかわらず、その測定の困難さ、または構造の複雑さのために明確にされていない。本研究では、繊維および繊維集合体の力学的異方性を明確にするとともに、それらの性能設計のための確実な基礎資料を供することを目的とし、繊維および繊維集合体の力学特性の実測ならびに理論的解明を行う。

①単繊維の力学特性　近年、川端1)により、単繊維の力学特性を直接測定する精密装置が開発された。この測定は、これまでの方法に比べてデータの信頼性が高いという特徴がある。この装置を用いて、以下の測定を行う。

（一）ヤング率およびせん断弾性率の測定　円形断面のみならず異形断面をもつ各種衣料用単繊維の伸長特性ならびにねじり特性を測定する。（二）捻り特性の疲労挙動の測定　高度に配向した繊維に関しては、繊維軸方向には強いが繊維軸と直行する方向およびせん断方向にはもろいという見解があることから、単繊維のねじり特性の疲労挙動を観測し、せん断変形における単繊維の強度変化に関する知見を得る。以上の結果を用いて、力学的異方性と直接関わる単繊維の内部構造についても検討を加える。

②繊維集合体の力学特性　現在、繊維集合体である布の力学特性として布の主軸方向への二軸伸長特性の予測方法が開発され、その有効性を確認している。これに加えて、布のせん断特性により、バイアス方向への伸長特性を明らかにする。

③繊維集合体の性能設計　これらの方法を繊維集合体の性能設計および強度設計に応用する具体例として、パンティストッキングの衣服圧を測定するとともに、応力緩和特性の測定を行い、ヒトが着用する繊維集合体の性能を明確にする。また、絆創膏のフィルムとして、さまざまな種類の編布／シートの複合材料を取り上げ、官能検査と力学特性との関わりを検討し、絆創膏のフィルムとして最も人間の皮膚になじむ材料を決定するための因子を明らかにする。

以上の計画に従って研究を進める段階で、将来、研究を続けていくために必要な基礎力を十分に身につけると共に家政学部で学んだが故にできる生活に密着した研究に今後とも取り組んで行きたい。

文献
1) S. Kawabata;Proc. of the 4th Japan-US conference on composites materials (1988)

吉村由美子

私の専攻は神経生理学です。私は自閉症の弟をもつためもあり、以前からずっと生後の脳の発達過程や学習、記憶のメカニズムについて非常に興味をもっていました。そして発達や学習の際、脳やそれを構成する神経細胞はどう活動し、どう変化するのかを勉強したいと思い、この分野を専攻しました。

博士課程で行う研究の計画ですが、斜視などにより生後の視覚経験が不十分であると大脳皮質視覚野における視覚情報の正常な認識が阻害されるという臨床報告が数多くなされています。つまり大脳皮質視覚野は脳内でも特に生後の経験や学習によってその発達が左右されやすい、可塑性の高い部位であるといえます。そしてその基礎過程として神経細胞の膜のレベルでの可塑性が動物実験などから示唆されています。特に長期増強と呼ばれる、情報の入力の多い神経細胞間のシナプスにおいてはその伝達効率がよくなりそれが長期にわたって維持されるという現象は、発達や記憶の基礎過程としての最有力候補です。そして最近長期増強とは逆に入力があってもそれに対して反応しないシナプスでは長期抑制がおこることが確認されつつあります。この長期増強と長期抑制の形成により脳の神経回路が形成され、全体として正常な機能を営むようになると考えられます。私はこのような現象が引き起こされる条件をラット大脳皮質視覚野の薄切切片標本を作成し、電気生理学的および薬理学的手法を用いて検討中です。大脳皮質視覚野におけるNMDA型受容体が最も可塑性にかかわっていることが確認されています。この受容体が長期抑制においてはどのような働きを担うのかを、その活性化によって変化する細胞内のカルシウム濃度の影響とからめて更に検討する予定です。

このような研究は生後の発達および学習と記憶といった、現代の科学ではなお未知である部分が多い脳の高次機能の解明につながるものです。同時にその解明は臨床でみられる知能障害児、あるいは痴呆患者の治療および予防法の手がかりになると考えています。また神経回路網の形成を明かにする事は現在のコンピューター社会で注目されつつあるニューロコンピューターの開発にも貢献すると思われます。

私は博士過程に進み、脳機能の解明に貢献するとともに、将来、世界に通じる研究者としてやっていける実力を身につけたいと思っています。最近女性研究者の数は増えたとはいえ、日本ではまだまだ少数であるのが現状です。これから仕事を続けるにあたって私もそういった面でもたくさんの壁にぶちあたるでしょうが、自分のためにそして働きたいと願う女性が社会的な理解を得られるようになるためにも、私はこの研究を一生の仕事とし、努力していきたいと考えています。

＜学部学生＞

大野祥子

大学一年次の演習の担当教授の専門が発達心理であったため、心理学の基礎を学ぶ頃からその方面の研究について耳にする機会が多かった。社会心理等の主に成人を対象とする研究分野は、ある状態を輪切りにして分析するだけの動きのないものに感じられた。それに比べて、生まれた時は無限に近い可能性を持っている子ども達が環境との相互交渉の中で、ある一つの人格を形成し、この世にただ一人しかいない人間になっていく過程はとても不思議で興味深いものだと思った。何が人を今あるその人の姿にするのか。おそらく自分という人間のルーツを知りたいという思いもあったのだと思う。私は発達心理学を専攻しようと決めた。

発達を学ぶためには子どもとの関わりは必要不可欠である。身近に小さな子どもがいたことが殆どなかったので、今年の夏は少しでも子どものことを知りたくて学童クラブでアルバイトをした。学童クラブとは、小学校一年から三年までの共働き家庭の子どもを下校後五時まで預かる施設である。子どもと話してみたいという位の気持ちで始めたのだが、実に多くのことを考えさせられる経験だった。

夏休みの間、子ども達は学童クラブでお昼を食べるのだが、ご飯を一杯につめた上にレタスを散らしただけのお弁当を持ってきた子がいた。保母さんの話では、その子の母親は自分が幼い時両親が離婚したため家庭的な雰囲気を知らないという。転んだ弟をすぐ助けおこさなかったという理由でその子の顔が腫れるほど叩いたこともあるそうだ。また子どもの世話をせず、離乳期には肉屋で買ったトンカツをしゃぶらせていた小学校教師の話もしてくれた。そのような育てられ方の影響が将来どのように現れてくるのだろうかと考えてしまった。

二カ月間彼らと接してきて環境が子どもに与える影響について深く知りたいと思った。児童憲章に「児童はよい環境のなかで育てられる」とある。児童にとってのよい環境とは何かを明確につかむために卒業後は大学院に進みたい。そしてそれを机上の空論で終わらせないよう、児童相談員やカウンセラー、保母などの仕事に就いて、より多くの子ども達によい環境が保障される手助けをしたいと思っている。

河上弥生

今年から私は、英語学科の専門演習で歴史哲学者クリストファー＝ドーソンの著作を扱っている。彼の著作において主張されている事は、概して以下の通りである。

ヨーロッパをキリスト教世界ととらえた上で、現在のヨーロッパがキリスト教の世俗化とともに分裂し、共通の精神基盤を喪う危機に瀕していると考える。そして、過去の歴史・イデオロギーに対する分析を重ねながら、ヨーロッパがその危機に陥った経緯と、今後その危機を脱して共同体としての絆を回復し、ヨーロッパ文化を再生させるために必要な要素を明らかにしようとする。

この中でドーソンは、主にヨーロッパの歴史に、彼独自の分析・見解を加えているわけである。それらの文章を読み、学ぶ側としての私が行っているのは、前提とされている歴史的事実を知り、彼の使う言葉の一つ一つの背後にある様々な分野の情報を調べ上げ、自分の知識として貯える事に始まる。現在は、ヨーロッパの政治史と、キリスト教史を並行して学んでいる。

現実の、激動のヨーロッパ情勢を考え合わせると、このドーソンを媒介としたヨーロッパ研究は、私にとって非常に生々しいものであり、単なる過去の読み直しにとどまらない。分裂したヨーロッパは再び"共同体"として出発する道を模索しなければならない、とドーソンが既に約三十年前に主張しており（但し、彼が言っているのは"精神的共同体"の意味であるが）、実際、この数年間で東欧諸国の民主化、東西ドイツ統一が進められているのである。私はドーソンの著作を読みながらヨーロッパ史を学び、現実のヨーロッパの動きに関して自分の見解を持てるようになる事を目標としている。

将来は、通信社、あるいは新聞社で働く事を希望する。両者は、その組織に入る事で、"生の"情報に直接ふれて自分の眼で事象をとらえる機会を得られるという点で共通していると思う。

情報社会といわれる今、日常生活の中で主に私達は

（次頁へつづく）

(前頁よりつづく)

テレビ、ラジオ、活字から情報を得ているが、よくよく考えてみると、そのすべての情報が、ある人間の(あるいは利益団体の)眼を通過したものである。数紙の新聞を読み較べてみればそれは理解できる。各々の新聞が、どういった事象をどのように書く傾向があるか、その違いが感じ取れる。

私は、ここでマスメディアによる情報操作の可能性を批判したいのではない。要するに、一方的な情報の受け手ではありたくない、という事である。情報の送り手になりたい。自分で情報に接し、分析して、人々に伝えるべきポイントを把握して書きたい。そのためには、常に問題意識を研ぎ澄まし続ける努力が必要であろう。専門演習におけるヨーロッパ史の勉強も、問題意識を強化する助けになれば、と望んでいる。

柴田育江

私が在学している日本女子大学家政学部家政経済学科は一九六四年に設立された、比較的新しい学科です。その中で約三年間学び、学科の基礎である経済学の枠組みがわかるようになってきました。そして、ようやく経済学の基礎に立った家政学部の学科の重要性が理解できるようになり、より一層興味が持てるようになりました。今日の日本人の生活の実態を客観的にとらえ、更にそこから人間らしい生活のあり方を探求することには従来にもまして意義があると思うのです。ますます複雑になり様々な問題をかかえている現代社会においていかに人間が人間らしく生きることができるかを考える上で、家政経済学科は非常に学び甲斐があります。現実の日本社会は、確かに表面的には「豊か」になったものの、他方では深刻な問題―税制、年金制度、医療や老人問題といった高齢化社会に向けての諸問題。都市問題。環境問題など―が山積みにされている状態にあると言えるでしょう。これら様々な問題はどれも産業の発展にばかり気をとられて「生活」という人間の基盤の大切さを無視してしまった結果、生じてしまったと言っても過言ではないと思うのです。こういったことを踏まえて今後の日本を考えていこうというのが、私自身の大きな課題です。また、三年次から公共経済学のゼミに所属し専攻分野を深めています。公共経済学とは政府活動を対象としたもので、経済政策や財政制度を評価し理論的な裏づけを与えることを目的とした学問です。家政学部に所属していますから、消費者の立場から政府の政策を評価するのはもちろん、社会全体の立場からも考えることによって政府と消費者の双方の視点から政府活動をとらえることができる点にとても魅力を感じています。

将来は、この特徴がある学科で学んだ広い社会的視野と生活問題への関心を生かして、社会に貢献できればと思っています。男女雇用機会均等法の導入によって大学卒女子が社会に進出しやすくなったと言えるでしょう。そういった状況の中、私の周りにも責任のある仕事に就き、できれば結婚・出産後も働き続けたいと考える人が多くなっています。しかし女性が働き続けるには条件的環境にまだまだ不充分な点があると思います。確かに最近では育児休業制度・介護休業制度を有する企業もでてきましたが、その数は少なく、しかもその制度を利用しづらいというのが現状です。このような問題にも取り組み、本当の意味で男性も女性も生きやすい社会のあり方を追究していきたいです。また先にも述べましたが、これから二十一世紀に向けては「生活」を重視した社会づくりがなされるべきだと思います。その中で女性のソフトな観点を生かして、消費者の意向や要望を汲みとりながら具体的には官公庁で幅広い視野を培い、ゆくゆくは消費者行政に携わりたいという希望を持っています。

所　真里子

私は文学部史学会に在籍し、地理学(人文地理学)を専攻している。ゼミでは「第三世界の開発と環境」(英文)をテキストに、第三世界の環境破壊問題を様々な事例を参考にしながら考えている。世界史で現在、第三世界と呼ばれる国々が欧米諸国の植民地になった時代を勉強したとき「なぜこれらの国々は植民地になってしまったのか」と疑問に思った。そして私たち先進国住民の豊かな生活はこれらの国々の犠牲の上に成り立っていることに気づいた。それ以来、私は第三世界の問題に興味を持ちがかえって迷惑になることさえある。

彼らは私たちが忘れ去ったものを彼らは持っていた。

一般的に、第三世界の問題＝貧困や技術の遅れと取られ、経済的・金銭的な援助がすぐに考えられるが、それは間違っていると思う。なぜならこの問題は歴史的背景があり、非常に複雑なものなので安易な援助は事態を悪化させるにすぎないからだ。現地の人々も私たちの援助など当てにはしていない。私たちの好意

贈呈式のあと懇談する奨学生の皆さん

つようになった。

昨年の夏、大学チャペル主催のキャンプに参加し、フィリピン・ルソン島北部山岳地帯の村で生活をした。この体験はとても言葉で言い表せないものであった。今までの自己像が音を立てて崩れ落ちるような、それほど強い衝撃をうけた。フィリピンの生活は確かに貧しかった。私が生活した村には電気も水道もなく、人々はボロ切れのような服を着ていた。しかし彼らの瞳は輝き、生き生きとしていた。生活は貧しくても心は豊かであった。私たちが遠い昔に忘れ、置いてきてしまったものを彼らは持っていた。

子供たちは塾通いで遊ぶ暇もない。老人たちは不安そうに生活している。こんな社会のどこが豊かなのか？真の豊かさを考えると、まず全ての人が生きがいを持って生きることだと思う。目先のことにこだわらず、人生という長いものさしで自分の人生を見つめ、絶えず生きがいを持ち続けてほしい。この手助けをすることが私の将来の希望である。最近話題になっている生涯教育にかかわることも考えられるが、まず自分が生きがいを持って生きる、そして身近なところから確実に広げていきたい。

私たちが第三世界の問題を学ぶと、何かしてあげようと思う傾向があるが、むしろ彼らから何かを得ようとするべきだ。フィリピンの人々が教えてくれた「人として生きることのすばらしさ」を数多くの人に伝えることが、私の将来の希望である。

てしまった心の豊かさ、暖かさ、そして人として生きることの大切さを教えてくれた。今の日本は確かに豊かだけれど、どこか歪んでいる。お金はあるが暇はない。たまの休日にはどこへ行っても人ばかり。休みが増えても特にすることもなく家でゴロゴロしている。子供たちは塾通いで遊ぶ暇もない。老人たちは不安そうに生活している。こんな社会のどこが豊かなのか？真の豊かさを考えると、まず全ての人が生きがいを持って生きることだと思う。目先のことにこだわらず、人生という長いものさしで自分の人生を見つめ、絶えず生きがいを持ち続けてほしい。この手助けをすることが私の将来の希望である。最近話題になっている生涯教育にかかわることも考えられるが、まず自分が生きがいを持って生きる、そして身近なところから確実に広げていきたい。

私たちが第三世界の問題を学ぶと、何かしてあげようと思う傾向があるが、むしろ彼らから何かを得ようとするべきだ。フィリピンの人々が教えてくれた「人として生きることのすばらしさ」を数多くの人に伝えることが、私の将来の希望である。

西　美保子

半導体技術に対する期待

現代社会で石油が不可欠であるのと同様に、半導体も我々の社会において重要な地位を占めるようになった。半導体はトランジスタやダイオード等の各種半導体素子に広く応用され、現代のエレクトロニクスを支えている。

トランジスタが発明されてから四十年余りの歳月が流れ、その間に様々な産業と関わりあいながらエレクトロニクス技術は、急速に発展してきた。特にICの出現は、コンピュータの発展と普及を促し、今日の情報化社会の基盤となった。そしてLSIから超LSIへと、より小型、高速、大容量、多機能、高信頼性のものが発明され、研究は続いている。

超LSIの登場によって溢れつつある情報を処理する高性能コンピュータ、デジタル通信などの新しい通信技術、人間の耳や口や目に相当する音声認識や合成、パターン認識のような処理も比較的手軽に、しかも高精度・高速で行えるようになった。更に、判断したり、推論したりという「人間的思考」をする装置が集積されて、小さなシリコンチップに収まる日もくるだろう。

そこで、私が大変興味をもっているのは、マサチューセッツ工科大学のミンスキー教授の唱えた〝心の社会理論〟である。教授は人工知能研究の権威で、この理論によると、コンピュータも人間のような「意識」や「感情」をもつことができ、それによって機械が〝何を学習すべきか〟という方向づけをし、より知的に成長するのである。

そのような機械が開発されれば、ライフ・サポート・テクノロジー(生命及び生活支援工学)も大きな進歩がみられるであろう。

日本の高齢化社会は急速に進行している。それに伴い増加する身体の不自由な高齢者や障害者を介護する人々の確保が困難になり、深刻な問題はもう現実となっている。その為に介護者のかわりとなる機器やシステムの開発は必須である。

いつか、〝鉄腕アトム〟のような心を持ったロボットも現われ、人間とロボットの共存生活が始まるだろう。未来への想像は果てしなく続くが、私は知的コンピュータやライフサポート・テクノロジーの研究開発の基盤は半導体技術にあると考える。又、半導体はエネルギー問題にもある程度貢献できるだろう。例えば、半導体の代表格であるシリコンを用いた太陽電池は光電変換率は一〇%以上であるし、製造コストも非晶質シリコンを用いるなどして普及しやすいような研究がなされている。

半導体は直接人々の目にふれることは少ないが、私はこの縁の下の力持ちのような半導体に大きな期待をもち、半導体の研究に携わる人々の一員になることを切望する。

横山織江

大学に入って、法律を専攻した。三年になって、専門科目だけを履修するようになった。民法、刑法という基本的なものに加えて、民事訴訟法、労働法、信託法、経済法、医事法、商法など、一週間、どの授業もぎっしり詰まっている。これは、好奇心が旺盛で、幼い頃から興味の対象が多くなりすぎ分散しがちだった自分には、初めての状況である。果たして、その私が、法一色の生活に染まりきれるか。二年前には不安であったが、その心配は無用であった。道を歩いていても、また、夜見る夢までも、四字熟語でいっぱいの毎日は、とても充実している。法の世界は深かったのだ。三冊目の六法を真っ黒にした今なお、闘いの日々である。

自分の将来について。女性であるためか、一般の男性のような、栄誉、名声を得たいという気持ちは全くない。そのために、目立たない分野で働くことによって、社会の発展や公正、幸福の達成に役立つ人間になりたいと思う。具体的には、個人的利益に捉われることの多い弁護士よりは、検事になろうと思う。大きな社会の問題点を追究するためには、チーム全員で力を合わせることが必要だ。そのメンバーのひとりとして、例えば、ロッキードやリクルートのような、個々の人間が地道に努力を重ねていこうという意欲をそぐような事件の摘発にあたろうと思う。一般に、「必要悪」のひと言で片付けられ、黙認されているものについて、極端な言い方をすれば、子供のような純粋な目で見ても納得のいく解決を導く役割を果たしたい。

しかし、これらの仕事は、法律を適用するという、いわば事後的な処理である。「希望は？」ときかれれば、裁く以前にうまくいっている関係づくりに参加したい。身近な友人関係を見ても、不知からくる誤解が生む摩擦の、いかに多いことか。時宜にかなった問題で言えば、日米の経済摩擦、日韓関係でさえ、個々の立場、利害の対立以上に、意図された不知と小さな誤解の歴史的な積み重ねのもたらしたもののように思われる。

夢の大きさに比べると少々ささやかではあるが、皆に法律を知らせることから始めたい。私の経験では、法律を知ると、その道具としての効用に加えて、相互の立場の違いを、比較的冷静に見つめることが可能になるからだ。そして、人々に対する説得力、何よりも、自分自身のその資格に対する納得のために、司法試験に通っていることが必要である。

大学生活を通じて、生来苦手なことであったが、ここまで目標を絞りこむことができた。ともすると芽を出す枝葉への関心を切り捨て、この方向に努力を集中させていきたい。そう考えている。

石塚一美

私は職業指導を専攻している。職業指導科は全国でも少ないので一般にあまり知られていない。子供にどの職業がよいか紹介する分野だと考える人が多いようだ。それも含まれるが、職業指導は生き方の指導なのである。つまり、子供の健全な育成、個性の伸長を計る教育へと発展する学問なのである。ゆえに必然的にカウンセリングや心理学的側面からのアプローチを必要とする。

最近は登校拒否など生徒の心理的問題が山積しており、その対応が迫られている。しかし、相当教科の指導には優れていても、道徳や生活指導は苦手という教師が多いようである。このままでは、今の子供達を相手に教育を続けていくことは難しい。学歴社会で個性の押し潰されている子供が増えている今こそ、職業指導は必要な学問なのである。

将来の目標は、大学で学んだ心理学、教育学を生かして、様々な悩みや障害を持つ子供と直に接し、助けてあげるような職業へ就くことである。私は入院の経験があるのだが、そこで、心臓病、腎臓病などの病気や筋ジストロフィーなどの難病、また、登校拒否や拒食症の子供達と出合った。彼らはそれぞれ病気特有の悩みを抱えながら懸命に生きていた。彼らに多くのことを教えられた。今まで登校拒否児を我がままで大人しい子と考えていたが、彼らが皆、感受性が強く繊細な心の持ち主であることを知った。登校拒否児は本当に学校へ行きたくても行けない子供なんだと分かった。新聞などで、「怠け」と解釈している文章を見かけるが、実際に筆者は彼らと会って話したことがあるのだろうか。ただ偉い人の書いた本でも読んで、納得したつもりになっているのではないだろうか。子供をこんな状態にしてしまったのは、現代の学歴社会、結局は我々大人であるかも知れないのだ。また、難病の子供達はその病気なりの悩みをそれぞれ抱えているにもかかわらず、それを理解しないで一様に判断する大人が多いことも知った。

普通校では、殆どが健康な子供である。教師は教科中心の教育でかまわないと思うかも知れない。しかし、いつどこでその普通の子が横道に逸れるかわからない。私は道に逸れてしまった子供達を本来の道へ戻してやる手助けをしていきたい。今の社会は画一的な教育をし、同じような主体性のない子供を育て、個有の性格をどんどん排除している。取り残され、行き場のなくなった子供達がこの社会の影に潜んでいるのである。非行や登校拒否をする子供、その他の障害を抱えた子供のいる、いわば現代社会の裏の世界で頑張ってみたい。じっくり一人一人と接し、一緒に悩み、解決への道を一緒に考える―。この様な仕事に就きたい。更に、子供と接し、子供を理解することによって、自分自身も絶えず問い直し、考えて成長していきたい。

＜ホームズ奨学生＞　柴　佳世乃

卒業論文において、御伽草子の和泉式部物に結実する式部説話を研究対象とし、大学院進学後も、中世における和泉式部像について実像をふまえ検討を加えている。

和泉式部は、様々な話のモチーフを取り込みながら、後世に幅広く語られていく。「くらきよりくらき道にぞ入りぬべき遥かに照らせ山の端の月」と詠んで性空上人に結縁したという往生譚、道命阿闍梨と通じ

(次頁へつづく)

国際人のすすめ

津田英語会　小・中・高校生、社会人のための250クラス
英会話/英語全般/ビジネス英語/時事英語/英検・TOEIC・TOEFL/英語一年コース/小学生(英)/中・高生(英・数)

津田スクールオヴビジネス　専門学校/国際ビジネス科/2年(昼)/定員450名・男女/推薦入試・一般入試
(併設・夜間短期講座)●ビジネス実務●中国語●スペイン語

津田国際研修センター
■国際公務員志望者訓練コース〈後援：外務省・国連広報センター〉
■国際ビジネスコース/国際会計財務・国際法律業務

津田日本語教育センター　日本語教員養成講座/文部省の標準カリキュラムに基づいて、日本語教員として必要な知識を習得する。

TEL (03)3402-7331㈹　東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24
※講座名を明記のうえ案内書をご請求ください。　津田塾会

（前頁よりつづく）

ていたという話などがあり、御伽草子に至っては〝やさしき遊女〟として登場するのである。

これら説話の一つ一つを考察していくと、さまざまな変化・展開はあるにせよ、源泉は平安を生きた和泉式部自身に求められるように思う。中世の一つのキーワードである〝つれづれ〟〝はかなし〟などの本質を、前時代を生きた式部が既に体得し、又表現しているのである。それは『和泉式部日記』および千五百首にものぼる歌を集めた『和泉式部集（続集）』に見ることができる。単なる「恋多き女性」という枠で捉えることのできない式部の内面を吟味していくことは、大きな課題である。その「日本文化」に携わっていきたい。

私にとって、日本文学を専攻し、これまで研究してきたことは、〝日本〟や〝日本人〟を再認識することに繋がっている。更に、大学で副専攻として日本語教授法を学び、日本語を今までとは違った視点で見直す機会を得た。これらと併せて、広い意味での「日本文化」に携わっていきたい。

中世の和泉式部像を考察することにより、中世という時代の孕む問題も、また見えてくるはずである。これからの研究を通して、それらの問題もより大きな視野で捉えていきたい。

泉式部享受に大きく関与している。絶えず、歴史的存在としての和泉式部を念頭に置きつつ、説話化の方向をたぐっていきたいと思う。

一九九〇年度 国外奨学生のプロフィル

国外奨学委員長　根岸愛子

今年は、十人の応募者があって、トルコとインドから一人ずつ優秀な研究者を選ぶことができた。応募者はスリランカから三人、インドから二人、トルコから二人、オーストリア、オーストラリア、タンザニアから各一人で、分野も理科系では造園、セラミック、血清学、細胞遺伝学、昆虫学などさまざまで、文科系では日本の法学、科学技術などいわゆる日本学であったのも面白かった。

☆ナリン・ユナルさん

トルコのイスタンブール工業大学を一九六九年に卒業、ドイツのアーヘン大学で、ph. Dを取得し、一九八三年アンカラ大学の準教授となり、現在はアクデニッツ大学で教えている。専門は材料力学である。JAUWでは一九九〇年九月から一二月までの三カ月に対して奨学金を授与した。九月一八日来日、一二月一八日まで大阪大学理工学研究所（ISIR）の新原教授の下で、セラミックに関する実験研究を行い、成果をあげて、帰国した。日本到着のときは、台風で新幹線がとまり、東京に一泊するハプニングもあったが、無事大阪に着き研究所の宿舎に滞在した。大阪支部長岩堂美智子氏をはじめ支部の方々がお世話下さった。昼食会での支部の皆様との交流、学校・博物館・美術館・寺社の見学など、日本文化にも接することができてよかったと大へん喜んでいる。

☆バイサキ・バンディオパドヤイさん

インドのカルカッタ大学で植物学を専攻して、一九八五年に卒業、一九八七年に細胞遺伝学の研究によって、M. S. の学位を取得した。現在カルカッタ大学の植物細胞・染色体高等研究センターの研究員として、豆科の植物の種のDNAについて研究している。一九八九年には、パリ大学のピエール アンド マリー キューリー 研究所の研修員として実験的形態遺伝学を学び、マイクロスペクトロフォトメトリック分析の技術を修得した。今度は東京大学理学部岩槻教授の下で、東大植物園において、四カ月間研究を行う。

JAUWは、一九九一年一月から三月まで、三カ月に対し奨学金を授与することとした。

彼女の研究はバイオテクノロジーの分野で、豆の種子の根の先端の細胞を用いてDNAを研究するもので、作物の生産性を高め、害虫・疾病に強く、土壌や天候など不利な環境に対して、より強い抵抗性を示すような新しい遺伝子型の栽培植物を作りだすのに役立つものである。彼女は一九九一年一月一五日に来日する予定なので、楽しみにしている。

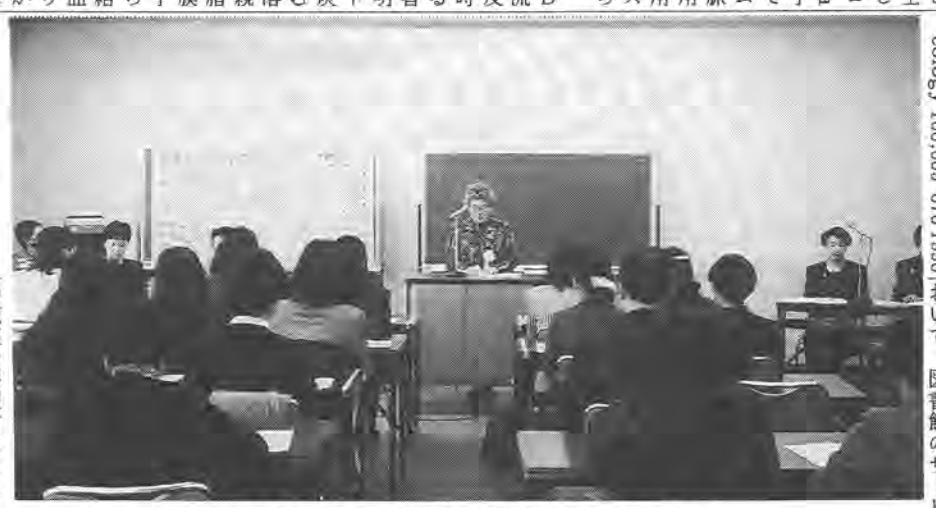
＜安井医学奨学生＞ 五藤由起子

生命を維持していく上で心臓が最も重要な組織の一つである事は言うまでもないが、寿命の延長や食生活の変化に伴い心臓疾患が成人病の代表格として問題になってきた。そこで心疾患の原因の究明や臓器特異性や疾患特異性等の高い新しい利点を持った心疾患治療薬の開発が益々必要となっており世界的に膨大な努力が払われている。心臓の活動は、電気現象に起因するため臨床的には心電図が頻繁に用いられ、基礎研究では摘出組織に対する活動電位の研究が盛んに行われてきた。この電気現象は、イオンチャネルと呼ばれる細胞膜上のタンパク質でできた通路をナトリウム、カルシウム（Ca）、カリウム（K）イオンが移動する事により生じる。特に一九八〇年代の初めより、酵素処理により心筋細胞を個々に単離する方法と、その単一細胞レベルで、さらには単一のイオンチャネルレベルで流れる微量の電流を測定する方法が新たに開発されてきた。これらの方法を用いると、イオンチャネル別に薬物の作用点及び作用機序を克明に解析する事ができ、新しい心臓電気生理、薬理学の知見が蓄積されつつある。申請者の博士論文のテーマは、この新しい手法を駆使してジヒドロピリジン（DHP）系Ca拮抗薬の長時間作用の分子メカニズムを解明する事である。現在、抗スパスム薬、抗高血圧薬や抗不整脈薬としてCa拮抗薬は繁用されているが、長時間作用するCa拮抗薬のメカニズムはその重要性にも関わらずまだ解明されていない。

部分的に構造の異なるDHP系Ca拮抗薬のCa電流抑制作用には、その強度及び薬物除去後の作用持続時間において大きな差がある事が知られている。申請者はこれまでに次の事柄を明らかにしてきた。①ジヒドロピリジン骨格第三位の炭素の側鎖が長く窒素を含むような構造の場合、脂質溶解性に富み結合部位への親和性が高い[2]。②そして脂質溶解性が高いため細胞膜の脂質中に多くの薬物分子が保持され細胞膜脂質からCaチャネルタンパクへ結合し作用を発現する。③血中の薬物濃度が代謝により減少しても細胞膜脂質中から薬物が消失するにはかなり時間が必要なため長時間の作用を発現する。これらの事は、抗高血圧薬の重要な作用部位である血管の収縮実験でも傍証となる観察結果が得られた[1]。臨床的には、低血中濃度でも主作用を発現させる事ができればそれだけ副作用軽減につながる。

一方、心臓には多数のK電流が存在するが、その中でも上心室性不整脈に関連の深いK電流をDHP系Ca拮抗薬が治療薬物濃度に比較的近い濃度で抑制する事を見いだしているので、今後この作用がこの薬物の抗不整脈作用等に関連しているかどうかを検討したい。また、Ca拮抗作用と同時に他の、たとえば抗β アドレナリン様作用、あるいはニトロ化合物用作用を合わせ持つようなDHP系化合物の作用の検討と、有用性を分子レベルで検討したい。

1）Japan. J. Pharmacology 51;37－45 1989
2）Br. J. Pharmacology 100;669－676 1990



大学婦人協会の奨学金について説明される中村会長

＜社会福祉奨学生＞ 長沢修子

私の研究テーマは、「視覚障害者に対する図書館の実態調査について」です。

現代の情報化社会において、毎日私達のもとへ飛び込んでくるニュースソースを的確に収集し、判断することは視覚障害者にとって限りがあり、通常の伝達だけでは数多くの困難を強いられることになります。私達視覚障害者にとって図書館の存在は、知識を高め有効に情報を収集するうえで非常に重要な場といえます。

近来、公立図書館を中心として蔵書の録音や点字化など様々なサービスを受けることができるようになってきていることも事実であります。著作権保護の問題が立ちはだかり自由に録音による朗読サービスを十分に受けることができません。

視覚障害者の社会的活動を更に拡大していく意味において、図書館のサービスの充実を要望するとともにこれからも私の研究として取り組んでゆきたいと考えています。

私は、盲学校中等部卒業後、普通高校を経て現在大学に在学しています。

中学校卒業後、友達の多くは高等学校の入学を希望しました。周囲の人は、私も高等盲学校に進学するものと思っていたようですが私自身は「普通高校に行きたい」と思っていました。その頃、卒業後の進路は高等盲学校へ入学し、三療、按摩・針・きゅうの資格を取得するということが一般的であり、先生方、父兄もそれが最善の道であるように思っていました。

そのような時、高等盲学校の先生の講演を聞く機会が有り、三療の仕事は現在正眼者にも徐々に広がり、人手が余っていて就職するうえで視覚障害者が不利になってきていることを言われ、そして三療以外にも視覚障害者の仕事が僅かではあるが存在していることなどを話されました。それで母が私の将来のことを考えて受け入れてくれる普通高校を調べ受験することができました。結果は残念ながら不合格となりました。しかし、普通高校に進むことを諦め切れず浪人することにしました。今まで私の通っていた盲学校では例の少ないことだけに、一部の父兄から驚きと疑問の声があがりました。

しかし、一年間予備校に通いようやく翌年に念願の普通高校へ入学することができました。

更に、大学に進学を考えたのは、より早く一般社会に適応するため、そして自分の身近な問題である社会福祉を専攻すること。現在毎日が真剣勝負で学問の楽しさ、難しさをかみしめながら元気に勉学に励んでいます。

鍛治倉陽子

現在、数学を専攻しており、大学では少なくとも一日に一科目、多いときは四科目の数学の講義があって解析学・幾何学・代数学の三分野にわたって学んでいる。特に興味をもっているのは幾何的な解析学で、四年生のときにやることになっているゼミではその方面の分野に進もうと考えている。関数論やトポロジーなど学びたいことが広範囲にわたっており、そのうちのどれか一つを選ぶことは今の私には難しい。とにもかくにも、今は学びたいことをどんどん吸収していきたい、と貪欲に勉強している。

大学に進んで数学を学ぼうと決心したのは、大学で学ぶ数学に対して憧れと好奇心と探求心があったからだった。大学に入って数学を学び始めた頃、高校の数学とは全くかけ離れていたのでとまどってしまった。いくつかの数学的事柄を定義して組み立てられる数学的構造の中で、成立する様々な定理と証明の理論的展開を完全に理解するまで自分で考えたり本で調べたりしなければならなかった。常に正解のある問題を与えられて解くというクイズ式のような高校の数学とは違い、大学の数学は常に正解が用意されているわけではない。当初は高校の数学のもつ単調さから抜け切れなくてとまどう日々だったが、今では自分の数学を作っていくという面白さ、魅力が分かりかけてきた。自分の頭の中に自分だけの世界を作っているようでとても楽しいのである。

すでに現存している定理や証明をなぞりつつ数学を学んでいるのであるが、それだけでは飽き足らなくなってしまった。自分で新しい仮定を出して証明を試みつつ、なにか新しい定理を見つけたいという大胆な夢をもつようになった。大学在学中にはできないそうだから大学院に進もうか…と考え始めたのは三年生になったばかりに頃だった。大学院に進んで数学の面白さを更に味わいたい。なかなか理解できず頭を悩ますことがこれからも度々あるだろうが、頑張って一つ一つ乗り越えていきながら自分の数学を作っていきたい。

国立大学で学んでいる一人の学生の為に、国民の汗を流して納めた税金がどれくらい費されているのだろう。大学院に進んだらなおさらだ。自分のしたいことをするのみではすまされなく、社会に対する責任を感じるのである。社会へ恩返しをしなくては、恩返しをしたいという思いにかられる。自分にそれをし得るだけの力があるだろうか？と考えると自信をもってイエスと答えられないのが正直な気持ちであるが、もしも大学院に進むことになったならば、ますます勉学に励まねばと切に思う。

きみたちのエネルギーは
感動に変わる。
KENSU 研数学館
パンフレット無料送呈！ ☎03(3261)8000
大学受験綜合科32コース、他／多種設置
新学期　受付開始 2/15
研数学館のオリジナル情報誌
●研数教師ジャーナル・プラスツウ
予備校ならではの生徒指導に関する記事を多く掲載しています。高校の先生方に大いに参加していただき、活用していただくことを考えています。
●研数父母ジャーナル
受験生の父母を対象に、親が子に的確なアドバイスができるように、必要な情報を精選して編集しています。
研数学館
東京校・本部校舎/〒101 東京都千代田区西神田2-8-15 ☎03(3261)8000
東京校・本郷校舎/〒118 東京都文京区本郷1－2－1 ☎03(3815)8000
津田沼校/〒275 千葉県習志野市谷津1-15-33 ☎0474(78)8000

より新しく、さらに松屋らしく。
松屋は生活デザイン百貨店。
MATSUYA TOKYO
松屋銀座＝火曜定休・〒104 東京都中央区銀座3-6-1 電話(03)3567-1211大代表
松屋浅草＝火曜定休・〒111 東京都台東区花川戸1-4-1 電話(03)3842-1111大代表

JAUW 新春のつどい

財務委員長　五十嵐 康子

第五回JAUW新春のつどいは、1991年1月26日（土）午後1時半より4時半まで高輪京急ホテルで開催され、栃木支部2名神奈川支部1名熊本支部2名を含む102名が参加された。

中村会長のご挨拶の後、フルートの平野靖様、ヴァイオリンの石井光子様、ピアノの内山夏子様による演奏が行われた。最初は平野靖様のフルートでお正月にふさわしく宮城道雄作曲「春の海」を尺八風に、フォーレ作曲「シシリアーヌ」は叙情ゆたかに吹かれた。次にフルート・ヴァイオリン・ピアノトリオでお三人はこの日のために初めてトリオを組まれたとは思えないほど息のあった演奏で曲目はイベール作曲「フルート・ヴァイオリン・ピアノの為の2つの間奏曲」、最初は静かに緩やかに、次は軽やかに明るく心がなごむ思いだった。最後は石井光子様のヴァイオリンでクライスラー作曲「愛の喜び」、サン・サーンス作曲「序奏とロンド・カプリチオーソ」、共にきめのこまかい見事なテクニックで格調高い素晴らしい演奏を聴かせて頂き、まだ弦の響きが耳に残っている。もっと多くの方にお聴き頂きたかった。アンコールの後、栃木支部長遠藤ミサ様、神奈川支部長房野桂様、熊本支部長のご子息夫人出井秀子様より出演者に花束が贈呈された。尚、平野靖様は社会福祉委員長野崎方子様のお従兄弟様、石井光子様は会員の佐藤敏子様のお姪御様です。京急ホテル社長よりのお花が飾られ華やかな雰囲気のステージで元会長の中村道子様のご発声で世界平和を願い乾杯が行われた。その後、熊本支部長出井ヤス子様より1993年総会開催地へのお招きのスピーチを頂いた。賑やかにお食事もすみデザートの前に世界けん玉道四段の免許をお持ちの平野靖様よりけん玉の由来や解説を伺いながら見事なお手並を拝見させて頂いた。因みに平野様のご本職は三菱化成株式会社のれっきとした部長でいらっしゃいます。新入会員そして栃木支部、神奈川支部、熊本支部からご参加の会員の方々のご紹介が終り、東京支部担当のお楽しみの福引に移り、金子支部長の軽妙な司会で番号が読上げられるたびに喚声があがった。バザーも盛況の内に終り昨年同様銀座松屋からのお土産があり和やかなうちにお開きとなった。尚会場で国内奨学金の募金にご協力頂いたことを感謝するとともに当日ご欠席でご寄付を下さった方々に心よりお礼申し上げる。

平野・石井・内山三氏の演奏

出井熊本支部長

中村道子元会長

演奏を終えて中村会長と出演者の方々

……………………
1992年　新春のつどい予告

日時　未定

会場　高輪京急ホテル（JR品川駅前）
……………………

講演　生体内ホルモンの役割

講師　野本照子氏

一九九〇年度国内奨学金贈呈式（一月十九日）に引続いて、東京女子医大教授の野本照子氏による記念講演が行われた。「生体内ホルモンの役割」というテーマの講演の要旨はあらましつぎのようなものだった。

ホルモンは、松果体、視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、卵巣、精巣などから分泌され、それぞれ特有の細胞に作用する。

主な作用としては、成長・発育・代謝・生殖の調節機構であるが、一つのホルモンの分泌が多すぎるとそれを抑制するホルモンが働くという作用もある。たとえば、膵臓から分泌されるインシュリンとグルカゴンという相反する作用をもつホルモンの一方が多すぎたときに、他方が働いて正常な血糖値を維持させる、といった作用である。

ホルモンの分泌は一定の周期で変動し、日内変動周期をもつ代表的なものが成長ホルモンである。睡眠の直後に急激に分泌量が増える成長ホルモン、「寝る子は育つ」といわれるのも道理のようである。

これより長い一か月という周期で変動するのが卵巣ホルモンである。月経や排卵、その結果として表れる基礎体温の変化。こうした女性特有の身体にはっきり表れるホルモンの周期変動や妊娠・分娩のメカニズムを充分理解することによって、正しい受胎調節を行い、賢明な人生設計に役立てることができるという。

ホルモンに働く特有の酵素をもっていて生物学的には男性より優位に立つ女性であるが、年齢を重ね、卵巣機能の衰えとともに、いささか哀しい運命が待っている。血中カルシュウムの吸収を調整する女性ホルモンが減少して、骨がもろくなり、男性の数倍もの頻度で骨折が起こりやすくなるからだ。これを予防するには、カルシュウム分を摂取すると同時に、活性ビタミンDの力を借りることである。摂取したビタミンDを活性化させる紫外線にあたるよう、戸外での活動を積極的に行うようにとのアドバイスがあった。

もともとが「目覚めさせる」という意味のホルモン、私たちが朝起きて活動を開始し、生活のリズムを整えられるのは、視床下部－下垂体－副腎へと働くホルモンや豆つぶほどの小さな松果体からのホルモンのおかげだという。

この他、時差ボケ予防の方法や、糖尿病のこわさなどのお話も加わり、長年ご研究に携わってこられた先生から、ホルモンの役割を通して、賢く、健康に生きていくための知恵を授けていただいた講演だった。

（東京支部副支部長　平野和子）

野本照子氏と講演を聴く奨学生と会員

新入会員（18名）

（1990年11月10日～1991年1月19日）

福島支部
吉田るみ子（津）　郡山市池ノ台17－23

茨城支部
酒井はるみ（茶）　水戸市赤塚1－1955－16

東京支部
麻生直子（茶）　品川区西五反田2－18－3グレイス五反田610
井上雅子（大女）　埼玉県富士見市鶴瀬西2－7－5－7
関口悦子（日）　多摩市桜ケ丘4－43－1
人見美枝子（聖）　川崎市麻生区上麻生1087－182

神奈川支部
長谷川雅世（関学）　横浜市金沢区並木2－9－1－201

奈良支部
井上真理（奈女・院）　京都市伏見区向島四ツ谷池14－8 6－1－408
森岡清江（奈女）　橿原市八木町1－6－5

神戸支部
遠藤明子（早）　宝塚市伊予志2－4－4－403
立花節子（神女）　宝塚市中山桜台3－11－7
浜田禎子（茶）　芦屋市朝日ケ丘町16－28
原田美保子（広女）　芦屋市竹園町5－25

広島支部
松原倫子（広女）　広島市西区古江上2－497－2ライオンズマンション古江ガーデン905
丸田博子（広女）　広島市安佐南区相田7－44－7
宮地伊奈（日女）　尾道市日比崎町16－16
吉朝潤子（奈教）　広島市佐伯区楽々園5－16－6－202

熊本支部
後藤優子（茶）　熊本市国府2－5－34－102

新春の集いに参加された会員の皆さん

創業慶応元年、
味づくり一筋
鈴廣蒲鉾工業株式会社
神奈川県小田原市風祭245
0465(24)3141(代)

古都の雅を、旬の味覚にたくして。
大志満
ホテルパシフィック 和食 大志満 ☎03(3445)6711 内線3911
ギンザコア店（ギンザコア9階）☎03(3574)8080
ニューメルサ店（ニューメルサ8階）☎03(3574)8081
新宿店（小田急ハルク地階）☎03(3348)8080
横浜店（横浜ルミネ7階）☎045(441)8080
花逢庵（横浜ルミネ7階）☎045(453)6081
金沢店（金沢東急ホテル3階）☎0762(63)5511